

序

遼寧省文物考古研究所と日本独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所が『三～六世紀中日古代遺跡出土文物の比較研究』と題して4年間(2002年4月1日～2006年3月10日)進めてきた共同研究はすでに終わりに近づき、成果はこの論文集にまとまって反映されているが、その成果はこれにとどまらない。

紀元3～6世紀は中国中原地方およびその周辺地域の歴史にとって重要な時期である。秦漢帝国の解体に伴って、周辺各地区の各民族は次々に政権を樹立し、そして大移動・大融合の中で活力に富み特色のある地域文化を絶えず創造し、歴史発展の過程を加速し、隋唐帝国の樹立と更なる繁栄の条件を整えた。東北アジア南部に位置する遼寧はこの時期、多くの民族の多くの文化活動が比較的頻繁な地域であり、公孫氏、慕容鮮卑族、高句麗民族は前後してここに政権を樹立した。彼らが創造した文化は、それぞれ固有の源流、文化発展の系列、民族と地域の特色及び発展の経路を有しており、また一貫して中原王朝および漢文化と密接な関係を保持し続けたため、東北アジアの古代史に引き続き輝かしい一章を記した。中国考古学会理事長であった故蘇秉琦氏は、中国文明の起源について「三部曲(3段階の編制)」「(古国一方国一帝国)」と「三模式(発展段階の3つのモデル)」「(原生型、次生型、続生型)」という系統を論じている中で、東北民族を含む北方地域の諸民族が秦漢以降歩んだ文明起源の過程を「続生型」国家モデルと呼び、その特徴は彼らすべてが類似した先秦時代の古国一方国一帝国といった発展過程を経ていることにあるとした。そして「騎馬民族は天下を平定したが、統治したのは漢族で、継承したのは漢文化であり、漢文化はここからも飛躍し、更に活力を得た。」とする。中国統一多民族国家の発展史において継続的に独特な作用を果たしている。

この時期は、東西の文化交流も非常に活発で、東北アジアとユーラシア草原とが接触する地帯である中国東北地方南部は、この交流ルートの東端の拠点であり、この地区で発生した歴史変革と文化刷新は、東西文化交流の持続と延長に伴い、朝鮮半島と日本列島にも波及した。こうした観点から、後者に対する影響は更に深く研究する価値がある。なぜなら朝鮮半島と日本列島の文明の起源・過程と国家の樹立は、いずれもこの時期に出現あるいは成熟しているからである。異なる経済類型・異なった文化伝統の文化間の接触・衝突・融合、また先進文化の大幅な吸収を主体とした相互の影響、さらに人々の移動に至るまで、これらは日本列島を含む多くの東アジア諸民族が文明時代に踏み出す重要な推進力となった。

このため、中日両考古学界はこの時期の中国東北地方南部と日本列島古文化の比較研究と新たな考古資料の蓄積を非常に重視している。その中で遼西地区魏晉十六

国時代の慕容鮮卑族を中心に創造された三燕文化は、日本古墳文化に多くの類似する、あるいは同一の文化要素があるため、すべての人が最も関心をもつ課題の一つである。喜ばしいことに、近年、慕容鮮卑族の建国前後の活動の中心であった遼西朝陽地区で、三燕時代の墓地と遺跡に対する大規模な発掘調査が行われ、相次いで系統的な資料を取得している。中日双方の学者は朝陽三燕龍城城址・北票喇嘛洞三燕時代墓地などの発掘現場の現地視察や出土文物の観察を通じて、三燕時代のいくつかの代表的な遺物、例えば金歩搖冠飾・金属馬具・帶金具・甲冑と鉄製武器・工具などについて、系列的・型式学的な比較を行い、これらの重要な遺物の製作技術について繰り返し緻密な観察と実験を行った。また、そこに反映された埋葬制度、騎馬文化の特色について多くの角度から分析し、三燕文化と中原文化の関係、さらにその東西文化交流における作用、特に三燕文化と日本古墳文化間の系譜関係、騎馬文化伝播の経路と方式などについて、さらなる認識を深めた。このように今回の共同研究は、先学の仕事を基礎として、中日双方が共に注目する重要な学術問題において深く掘り下げるとともに、更なる継続すべき研究のためにも多くの新たな課題を提出した。本文集に収めた論文は、大部分がこの方面の研究成果である。

今回の中日共同研究の過程において、双方は長所を取り入れ短所を補い、相互に尊重し、相互に学習し、共に向上する当初の目的を達成した。この共同研究に参加した中国の学者は、日本の学者との接触と日本の多くの発掘現場、すでに展示開放されている遺跡と博物館の考察を通じて、日本の考古学・文化財の博物館などにいる同じ分野の人たちが、考古学の研究において厳格な学風であるだけでなく、考古資料の収集、科学技術の応用について発掘調査・文化財保存・大規模な遺跡の保護と活用などの各方面で著しい成果を得ていることを感じた。これらの成果と経験は、現在この分野で仕事をしている中国文物考古界にとって、多いに参考とすべき点である。遼寧省の文物考古学者は今回の中日共同研究で得た成果を今後の仕事の中で生かし、東アジア地域の歴史考古研究をさらに推進することができる。

中国遼寧省文物考古研究所名誉所長：郭大順
中国遼寧省文物考古研究所 所 長：王晶辰

2006年3月